



公益社団法人
鹿児島県理学療法士協会
ニュース No.101 (140)

2024. 2. 26

■発行
公益社団法人
鹿児島県理学療法士協会
■発行人 平名章二
■編集 原口拓人
■事務局 〒890-0063
鹿児島市鴨池1丁目48-25
TEL 099 (203) 0860
FAX 099 (203) 0865
■印刷 中礼印刷

総会員 2593名 (2/1現在)

URL : <http://infokpta.com/>
e-mail : infokpta@po.minc.ne.jp



鳥ノ巣山展望台 (薩摩川内市)

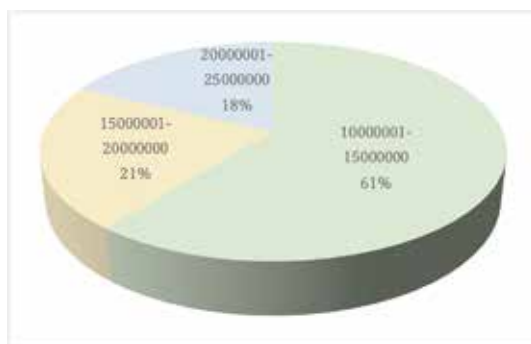
目次

研修報告 (専門部より) 2 (循環器系・神経系・呼吸器系)	大隅地区 第3回研修会報告 14
研修報告 (学術部より) 5	北薩地区 研修会の報告 (第1回・第2回) ... 15
研修報告 (福祉部より) 6 (高齢者・障がい児者)	南薩地区 研修会報告 17 (第4回・第5回・第6回)
鹿児島地区研修会報告 (第1回・第2回) 8	役職者対象アンケート調査結果報告 20
始良地区研修会報告 (第2回) 10	私と私の職場 25
第3回始良地区研修会についてのお知らせ 11	私のおすすめ 26
始良地区症例検討会聴講募集のお知らせ 12	事務手続きのご案内・連絡事項 27
大隅地区 症例検討会報告 13	事務局だより・編集後記 28

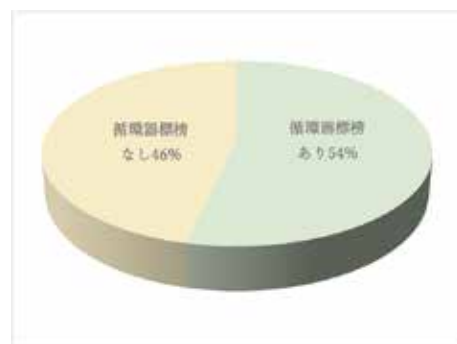
研修会報告（専門領域 循環器系研修会）

専門領域研究部理事 岩 森 俊
部長 中 尾 周 平
担当 菅 原 直 美

令和6年1月7日(日)に、『心不全』をテーマとして研修会を開催致しました。参加者は28名で、幅広い経験年数の先生方、また他領域で御活躍されていらっしゃる先生方にも御参加頂き(グラフ1, 2)、運営側と致しまして大変嬉しく思っております。



グラフ1 会員番号



グラフ2 循環器標榜の有無

レクチャーを鹿児島大学病院の野島先生、中尾先生に、症例提示を国分生協病院の野先生にして頂きました。レクチャーは、心臓の解剖から心不全の病態まで、更に実践的奮評価やアセスメントと、明日からの診療に活かして頂ける内容でした。グループワークでは、レクチャーでインプットした知識を症例検討によりアウトプットすることができ、非常に有意義な研修会の構成であったと自負しております(研修会の様子：写真1, 2, 3)。



写真1



写真2



写真3

次年度からは、代謝系と循環器系の年2回の開催を計画しております。内部障害の患者さんを目前にして、日頃不安や疑問をお持ちの先生方、是非御参加下さい！運営部一同、心よりお待ちしております。

また、登録理学療法士や認定・専門理学療法士をお持ちの方で、講師に御興味のある方は、099-226-8181（社会医療法人天陽会 中央病院 心臓リハビリテーション室 菅原）まで御連絡ください。

研修会報告（専門領域 神経系研修会）

専門領域研究部理事 岩 森 俊
部長 戸 田 博 之
部長 中 尾 周 平
部長 西 洋 樹
上 橋 秀 崇

令和5年度の専門領域神経系研修会を下記の概要で開催いたしました。

日 時：令和5年11月19日（日）9：00～12：10

場 所：鹿児島医療福祉専門学校

テーマ：「脳卒中理学療法のマネジメント～認定理学療法士として学んだ脳画像、装具療法を中心に～」

講 師：松尾 悟史 先生（社会医療法人青雲会介護老人保健施設青雲荘）

今回は社会医療法人青雲会介護老人保健施設青雲荘の松尾悟史先生に「脳卒中理学療法のマネジメント～認定理学療法士として学んだ脳画像、装具療法を中心に～」というテーマで対面形式にてお話しいただきました。前半では、中枢神経疾患の理学療法にて歩行訓練は悩む事は多々あり、その中でガイドラインやエビデンスの活用、装具療法という選択肢を持つ事や、装具の種類や機能を丁寧に説明いただきました。また後半では脳画像について各スライスの見え方や、脳画像からどのような症状・予後予測が考えられるか、グループワークも交えて非常に分かりやすく、臨床の場での思考が広がる内容でした。

今後とも会員の皆様の知識・技術の向上、最新の知見等、臨床に役立てる研修会を開催していきたいと思っております。会員の皆様引き続きよろしく願いいたします。



研修会報告（専門領域 呼吸器系）

専門領域研究部理事 岩 森 俊
部長 中 尾 周 平

令和5年12月10日（日）に谷山生協クリニックの坂元将也先生に「呼吸器のフィジカルアセスメント」、国分生協病院の吉野徹先生に「排痰法」というテーマで、鹿児島医療福祉専門学校にて行いました。今回数年ぶりの対面研修で、排痰法ではアシスタントの先生方の協力のもと少数グループでの実技を行う事もできました。久しぶりの対面・実技研修という事もあり、当初20名に限定しましたが、最終的には26名の参加者でした。参加者の協力もあり、換気・マスク着用での感染対策を行いながら実技も実施する事ができました。前半の「呼吸器のフィジカルアセスメント」では、肺の解剖から視診・触診・打診・聴診について座学を中心に、後半の「排痰法」では呼吸介助（排痰）を行う際の注意点と背臥位・側臥位・座位での呼吸介助の実技を行なっていました。5～6名の少数グループに1名のアシスタントが付いての実技であったため、受講者も積極的に質問できる環境で少ない時間ではありましたが有意義な研修になりました。最後には、アシスタントの先生方も交え質問に対しても丁寧に対応していただきました。来年度は、2回の研修会を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。



学術部研修会報告

学術部担当理事 白 尾 麻 美
部長 木 山 良 二
部長 福 森 愛 美
部長 川 田 将 之

○ 鹿児島県理学療法士協会学術部研修会報告

タイトル：脳卒中に対する歩行トレーニング 基礎から実践

講 師：大 畑 光 司 先生（北陸大学健康未来社会実装センター）

会 場：鹿児島大学医学部保健学科共通教育棟インテリジェント講義室

日 時：2023年12月17日（日） 9:30～16:40

参 加 者：60名

12月17日に令和4年度第4回学術部研修会を上記の通り開催しました。休日にも関わらず、多数の会員にご参加をいただきありがとうございました。

今回の研修会では、歩行のバイオメカニクスや歩行に関わる制御、中枢神経疾患による影響等の理論的背景から、実際の歩行に対する介入とその効果といった実践的な内容までご講演いただきました。参加者からの質疑応答も活発に行われ、充実した研修会となりました。

大畑先生のご講演でのお言葉ですが、理学療法士には科学的に適切な介入を選択し、対象者に提供する義務と責任があります。そのために、常に研鑽を続け知識と技術をアップデートしていく必要性を強く感じました。



令和5年度 高齢者福祉部研修会報告

高齢者福祉部理事 福田 秀文
部長 阿多 昌幸

令和5年11月25日に始良公民館で介護技術伝達講習会「起居移乗動作介助と福祉用具使用法」をテーマとして実施しました。昨年まではコロナ禍の影響もあり、オンライン開催となっていたが、3年ぶりに対面開催を実施しました。始良地区の病院・福祉施設に案内を出し、福祉用具協会の協力のもと実技メインでの講習会を実施しました。参加者は現場で介護職として従事されている方々9名の参加を頂きました。基本的な電動ベッド操作から起居移乗動作に始まり、福祉用具を使用しての移乗動作まで実施しました。参加者同士で利用者役をして頂き、利用者の心情を理解できたとお声を頂きました。また福祉用具を実際に触ることが初めての参加者もあり、介助者負担の軽減がよい介護に繋がるとの意見を頂きました。今回2名の講師で実技指導を行い、個別の介護相談も受け付けていたため「仕事での負担軽減につながる。」と参加者から概ねご好評を頂きました。

高齢者福祉部は県内各地を回り、地区単位での介護技術伝達講習会を開催しています。今後も地域貢献できるよう取り組んでいきたいと思っております。今後とも高齢者福祉部を宜しく願い致します。



令和5年度 第2回 発達サポート研修会報告

障がい児・者福祉部理事 山中 純
部長 小山 尚宏

テーマ：子どもの行動と感覚

講師：菊野病院 理学療法士 下 畠 千 恵 先生

開催形式：オンライン開催 (Zoom)

日時：①令和5年11月25日(土) 10:00~11:30

②令和5年12月3日(日) 10:00~11:30 ビデオ開催 (録画放送)

対象：県内の保育・幼稚園関係者、療育関係者、保護者 等

参加者：102端末(1端末から複数人参加を含む)

障がい児・者福祉部では、主に一般の方を対象に公開講座として年2回の研修会を開催しています。

今年度第2回目の研修会は、県内全域の保育・幼稚園施設(こども園含む)や療育施設および保護者を対象に広報を行いました。また、今年度も昨年度同様、多くの方にご参加いただく機会の提供のため、別日にビデオ開催(録画放送)日を設ける対応を行い、両日合わせて102端末のご参加をいただきました。

講師の下畠先生は、乳幼児への理学療法や特別支援学校など地域の施設との連携活動にも従事されています。そのご経験から、今回、子どもたちが抱える困りごとや行動の背景を理解し、子どもに合ったより良い対応に繋げていけるように、感覚機能の育ち方や胎児期・乳幼児期の運動発達の見点も合わせて、ご講演いただきました。

研修会後のアンケートでは、研修会内容に関する感想だけでなく、参加者が日頃子どもたちの支援において直面している課題や困りごとについてもご意見をいただきました。保育・教育・療育の各現場の方々の貴重なご意見を、今後の当部会の活動に活かしていくことで、子どもたちのより良い発達・成長を支えていければと考えています。

今後とも障がい児・者福祉部をよろしくお願いいたします。

令和5年度 第1回 鹿児島地区研修会報告

鹿児島地区・奄美地区担当理事 東 幸 太
鹿児島地区・奄美地区担当理事 岩 森 俊
鹿児島地区長 上 川 毅 康

令和5年12月15日（金）19：00より、社会医療法人 天陽会中央クリニック講堂にて第1回鹿児島地区研修会を対面にて開催いたしました。

今回、天陽会中央病院 リハビリテーション部 加治屋 千晶 先生（循環器認定理学療法士）より「心不全に対する理学療法」について講演賜りました。心不全に対する理学療法を展開する上で必要となる基礎的内容から急性心不全患者の症例報告など、わかりやすくご説明していただきました。研修終了後の質疑応答におきましても、多くの参加者より質問頂き、大変有意義な研修となりました。今回の研修を通し、様々な学びや気づきを得ることができ、参加者の皆様の臨床での一助になれば幸いです。

今後も会員の皆様の臨床に生かせる研修会を企画して参りますので、ご参加の程よろしくご願ひ致します。今回の第1回鹿児島地区研修会参加者は36名でした。



令和5年度 第2回 鹿児島地区研修会報告

鹿児島地区・奄美地区担当理事 東 幸 太
鹿児島地区・奄美地区担当理事 岩 森 俊
鹿児島地区長 川 元 大 輔

令和6年1月12日（金）19：00より、鹿児島医療技術専門学校にて、第2回鹿児島地区研修会を対面にて開催いたしました。

今回、鹿児島大学病院 リハビリテーション部 原田太樹先生（運動器認定理学療法士）より「変形性関節症に対する理学療法評価・治療のPoint」について研修会が開催されました。

変形性関節症は、日々の診療で遭遇する機会が非常に多く、今後も高齢化に伴い増え続けていく疾病であり、根拠に基づく評価と治療展開が必要になります。

今回の研修では、①機能障害が能力低下に繋がる障害モデルに加え、病因や病理、症状といった医学モデルと重ねた評価の重要性と、②エビデンスに基づく治療戦略（触察も交えて）について説明頂きました。

研修終了後に、参加者から講師へ積極的な質問や触察の確認を熱心に行っている様子を見て、ただただ感服いたしました。

今後も会員の皆様の臨床に活かせる研修会を企画して参りますので、ご参加の程よろしくご願ひ致します。今回の第2回鹿児島地区研修会参加者は21名でした。



令和5年度 第2回 始良地区研修会の開催報告

始良地区担当理事 神 田 勝 利

始良地区長 福 榮 竜 也

文責 寺 師 はるか

日 時：令和5年11月22日（水）19：00～21：00 Web開催（ZOOM）

参加者：72名

テ ー マ：『高齢者の健康に対する関連因子と地域で実践すべき対策』

講 師：霧島市立医師会医療センター 福榮 竜也 先生

カリキュラムコード： 13 154 地域保健

講義概要：今回の研修会では、福榮先生がこれまで老年医学に対する研究から得られたフレイル・サルコペニアに関する基礎知識やエビデンス、霧島市の健康推進活動や研究を通して日常生活から予防できる方略についてご講義いただきました。平日の研修会でありましたが、多くの先生方にご参加いただき活発な質疑応答もあり有意義な時間であったと考えます。高齢化社会が注目されている今、今後益々重要視されるフレイル・サルコペニアについて多くの研究結果や地域活動での実践方法など明日から使える知識であり、私たちの臨床実践に役立つものとなりました。今後の始良地区の活動としまして、3月に第3回始良地区研修会（呼吸器分野）・第1回始良地区症例検討会を予定しております。ぜひともご参加いただきますようお願い申し上げます。



令和5年度 第3回 始良地区研修会についてのお知らせ

始良地区担当理事 神 田 勝 利
始良地区長 福 榮 竜 也

今年度3回目の始良地区研修会を開催いたします。
WEBでの開催ですので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【研修会概要】

日 時 : 2024年3月8日(金) 19:15~21:00
開催区分 : Web開催 (Zoomミーティング)
研修会テーマ : 『 呼吸器疾患に対する理学療法 の展開 』
講 師 : 永 田 健 二 先生 (鹿児島生協病院) 認定理学療法士 (呼吸器)
申込締め切り : 2024年3月1日 (金)

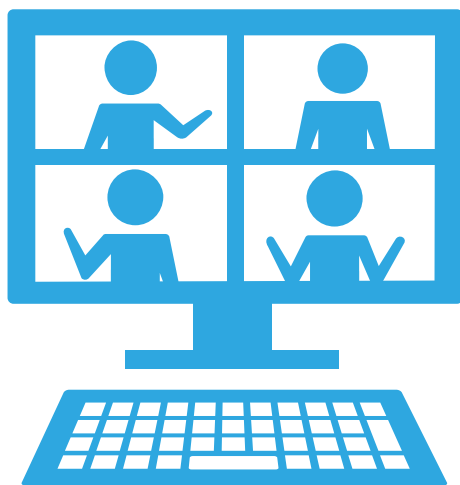
*履修ポイントについて

登録理学療法士更新 : 1.5ポイント (カリキュラムコード : 38理学療法評価)
認定・専門理学療法士更新 : 1.5ポイント
前期研修・後期研修 : ポイント対象外 (参加は可能)

*申し込み方法 : 右のQRコードよりお申込みください。

※zoom IDについては研修会の日程が近づき次第、登録
いただいたメールアドレスに送信させていただきます。

※キャリアメール (docomo, au, softbank等) は資料が
送れないためご遠慮ください。



お問い合わせ先

青雲会病院 河 村 雄 太
霧島整形外科病院 益 山 舞 希
Eメール : aira.warkshop@gmail.com

令和5年度 第1回 始良地区症例検討会聴講募集のお知らせ

始良地区担当理事 神 田 勝 利

始良地区長 福 榮 竜 也

令和5年度 始良地区症例検討会についてご案内いたします。

第1回 始良地区症例検討会は『重度脳卒中片麻痺患者の生活期における長下肢装具活用の一例』に関する内容で開催致します。

会員皆様の多数の参加をお願いいたします。

日 時 : 令和6年3月8日(金) 18:30~19:10 Web開催(ZOOM)
(18:20~ミーティングルームが開きます)

症例検討会テーマ : 『重度脳卒中片麻痺患者の生活期における長下肢装具活用の一例』

発 表 者 : 加治木温泉病院 吉 村 優 希 先生

履 修 ポ イ ン ト : 後期研修 E-1神経系理学療法学 聴講1/3コマ履修

申 込 方 法 : 下記のQRコードを読み取り、症例検討会申込フォーム入力にてお申し込み
ください。

下記のURLからでも研修申込出来ます。

<https://forms.gle/t8AGNRx26bskb7RX9>

申し込み締切 : 3月1日(木)



研修申込フォーム



参加には事前申し込みが必要となります。

事前申し込み完了者へ、研修会前に視聴zoomのURLを送信いたします。

研修会参加については、会費納入がお済みの方を必須といたします。

納入がお済みでない方は、手続きのほどよろしくお願いたします。

問い合わせ先 : 鹿児島県理学療法士協会始良地区研修会担当

E-mail : aira.workshop@gmail.com

令和5年度 大隅地区症例検討会報告

始良・大隅地区担当理事

恒心会おぐら病院 榎 畑 純 二

大隅地区長

恒心会おぐら病院 永 瀆 良 太

2023年度の大隅地区症例検討会を11月9日にオンラインで開催いたしました。

今回は以下の3症例のエントリーがありました。

- ① 「既往に神経核封入体症をもち、てんかん重積状態にて入院した症例に関して」

恒心会おぐら病院 遠 藤 翔 先生

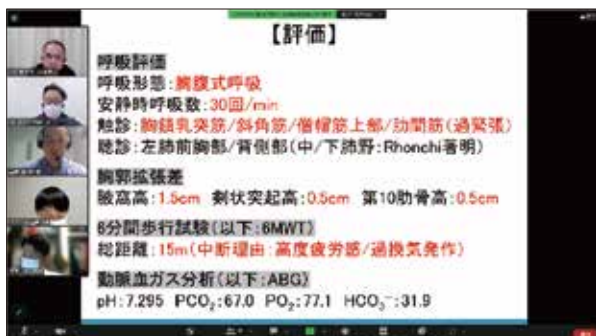
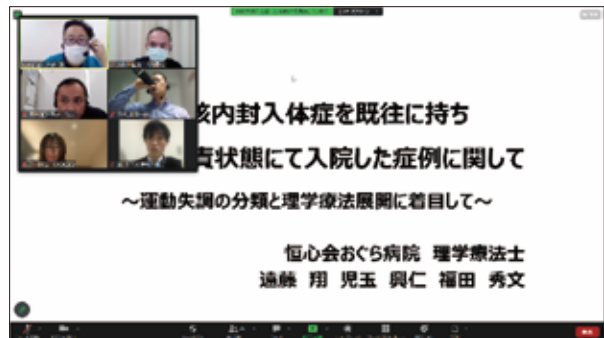
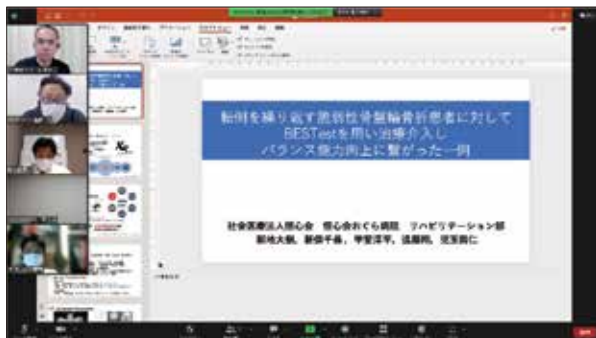
- ② 「労作時呼吸困難感の改善を認めた気管支拡張症の一症例」

大隅鹿屋病院 永 江 真向斗 先生

- ③ 「転倒を繰り返す脆弱性骨盤輪骨折患者に対してのBESTestを用いた治療介入し、バランス能力向上に繋がった一例」

恒心会おぐら病院 新 地 大 樹 先生

昨年度は新生涯学習制度が始まったばかりであり、後期研修へ進まれている会員の方もまだ少なく、発表エントリーも1名でした。しかし今年度は、発表者・聴講者とも後期研修の方が増えてきており、徐々に生涯学習制度が進んできていると感じました。発表時間も30分と以前は長いように感じられましたが、各発表者の方が丁寧な説明に時間を割いて頂いたことと、質問もあり時間いっぱい使った内容となっていました。大隅地区は対面での開催は、移動時間の問題等もありオンラインでの開催を継続しておりますが、地区外からの聴講者も多く参加していただき、充実した症例検討会が開催できました。今回の参加者は38名でした。



令和5年度 第3回 大隅地区研修会の開催報告

始良・大隅地区担当理事

恒心会おぐら病院 榎 畑 純 二
大隅地区長

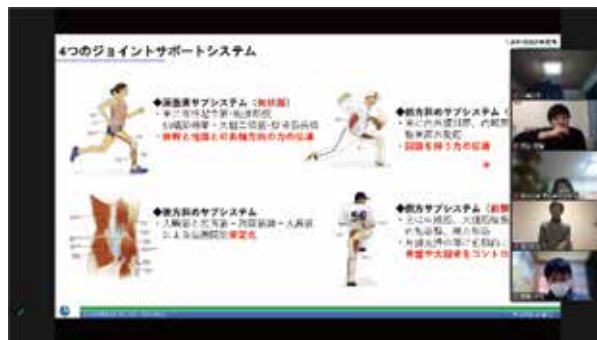
恒心会おぐら病院 永 濱 良 太

大隅地区第3回研修会を12月8日に完全オンラインで開催いたしました。

今回は、社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院理学療法士、中畑敏秀先生に「アスレチックリハビリテーションで役立つ競技復帰に向けたトレーニング指導の理論と実践」の演題で御講演いただきました。聴講者は大隅地区外からも含め、55名の会員の皆様にご参加いただきました。

講演内容としまして、①身体機能の再獲得、②体力とトレーニング理論、③メディカルリハビリテーションとアスレチックリハビリテーション、④フィジカルトレーニングの実際（FPDCAに沿って）、⑤実践事例（ACL術後競技復帰例）について、60分と短い時間ではありましたが、動画等を含めてご講演いただきました。病院・施設では聞き慣れない用語もたくさん出てきましたが、丁寧にご説明いただき、医療現場からフィールドへの復帰に向けて何を評価し、何を改善・強化させ、何を判断基準に競技復帰させるのかの流れを知ることができました。

今回で、令和5年度の大隅地区事業は終了となります。次年度も地域リハ、中枢・呼吸器関係、運動器・スポーツリハ関係等多様な研修会を企画してまいります。たくさんの会員の皆様のご参加をお願い致します。



令和5年度 第1回 北薩地区研修会報告

北薩・南薩地区理事 長 嶺 英 博

北薩・南薩地区理事 山 中 純

北薩地区長 鈴 東 伸 洋

令和5年度 第1回北薩地区研修会を、11月15日（水）18：30～20：30、オンライン研修会（zoomミーティング）という形で開催しました。

今回のテーマは、「Trailing limb Angle (TLA) についての論文紹介とTLAの重要性に基づく歩行における治療アプローチの検討」で、講師は、私（クオラリハビリテーション病院 鈴東伸洋）が務めさせていただきました。参加者数は計74名でした。オンラインを活用することにより、北薩地区は勿論のこと、北薩地区外の会員の皆様も多数参加してくださいました（北薩地区：33名 鹿児島地区：25名 始良地区：8名 南薩地区：5名 奄美地区：2名 大隅地区：1名）。

歩行における研究や研修等でキーワードになる「Trailing limb Angle (TLA)」について、いくつかの研究論文の内容をまとめ、どのような内容なのか、どのような場面で有効なのかを、説明しました。

また、重要となる構成要素について患者を含めた対象者に反映できるように、ビデオによる治療アイデア（実技場面）を提示し、具体的なアプローチを紹介しました。

エビデンスや最新の知識に基づく個別リハビリテーションを提供できるよう、新しい情報に目や耳を傾けてほしいと思います。参加してくださいました会員の皆様、本当にありがとうございました。



令和5年度 第2回 北薩地区研修会の開催報告

北薩・南薩地区理事 長 嶺 英 博

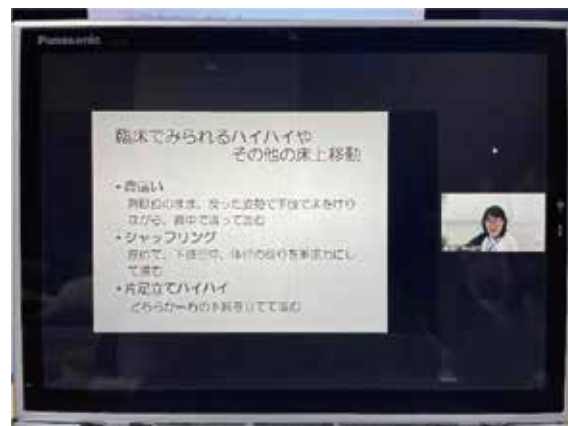
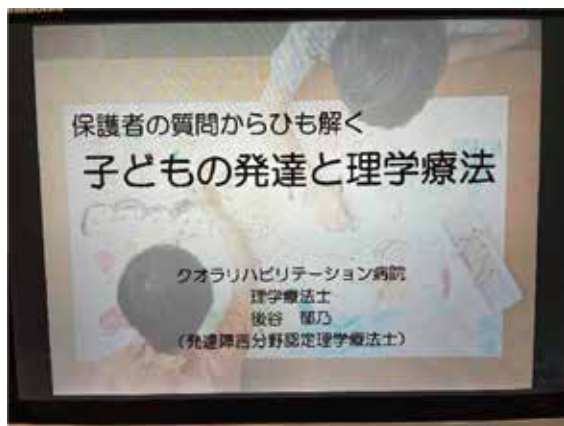
北薩・南薩地区理事 山 中 純

北薩地区長 鈴 東 伸 洋

令和5年度の第2回北薩地区研修会を、12月20日（水）18：30～20：30、オンライン研修会（zoomミーティング）という形で開催しました。

今回のテーマは、「保護者の質問からひも解く、子どもの発達と理学療法」で、クオラリハビリテーション病院 後谷 郁乃先生（発達分野認定理学療法士）にご講演いただきました。参加者数は63名でした。今回も北薩地区や地区外の会員の皆様が参加してくださいました（北薩地区：33名 鹿児島地区：16名 始良地区：5名 南薩地区：5名 大隅地区4名）。

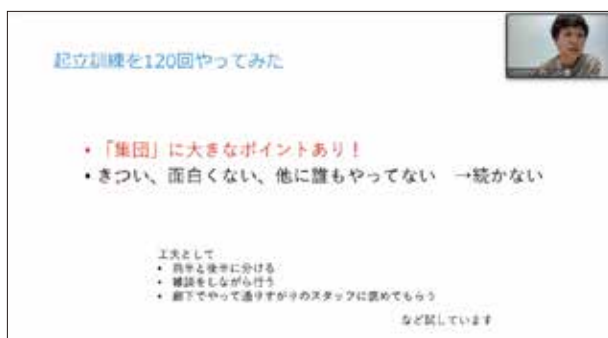
今回は、小児リハ場面や乳幼児健診等で、保護者や多職種の方々から寄せられた質問や疑問を基に、正常発達から臨床、保護者への具体的な指導内容までを丁寧に説明し、小児リハ未経験の会員の方にも分かりやすい内容でした。基礎的・専門的な知識を踏まえ、保護者の方や多職種のニーズ（困りごと）に適切に対応することが求められていることを再確認できました。小児分野の研修はまだまだ数が少ないので、様々なテーマを検討していきたいと思います。これからも会員の皆様の発展に役立てられるよう、地区研修会を企画していきたいと存じます。参加してくださいました会員の皆様、本当にありがとうございました。



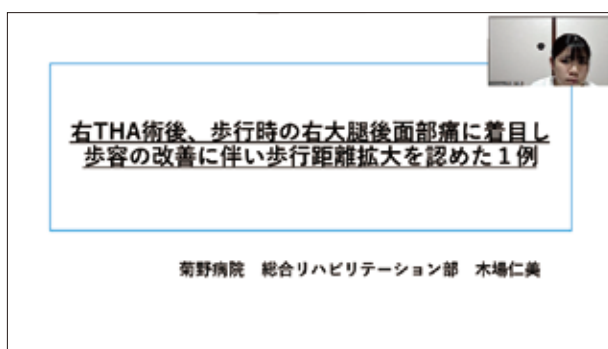
令和5年度 第4回 南薩地区研修会および症例検討会報告

北薩・南薩地区理事 山 中 純
南薩地区長 木 場 涼 介

令和5年11月28日(火) 19:00より、第4回南薩地区研修会をWeb上(Zoom)で開催させていただきました。講師は、医療法人浩然会 指宿浩然会病院の西元友喜先生により「リハビリテーション栄養について」というテーマで60分間にわたってお話しいただきました。内容として、リハビリテーション栄養の基礎から、先生が実際に学んでこられたことを、実際の臨床の現場で行ってみて感じたこと、失敗談なども含めてわかりやすくご講演いただきました。リハビリテーション栄養の重要性を理解はしているものの、実際に多職種も含めて実践するのはなかなか困難なことも多いかと思いますが、臨床で行う際のヒントがたくさん見つかったのではないのでしょうか。



その後、20:10より、第4回症例検討会として、医療法人菊野会 菊野病院の木場仁美先生により「右THA術後、歩行時の右大腿後面部痛に着目し歩容改善に伴う歩行距離拡大を認めた1例」と題して報告が行われました。大腿骨頭壊死後のTHA術後の患者に対し、疼痛改善からの歩行距離の拡大に着目した報告が行われ、その後の質疑応答でも活発な質問や、ご意見をいただき発表された先生のみならず、聴講者の先生方にも良い刺激となる症例検討会となりました。



最後に、聴講していただいた先生方、ありがとうございました。今後とも引き続き、南薩地区研修会および症例検討会へのご参加、よろしくお願い致します。

また、研修会の司会進行をしていただきました前畠雅彦先生、および症例検討会座長を務めてくださいました、内菌正樹先生、ご協力ありがとうございました。

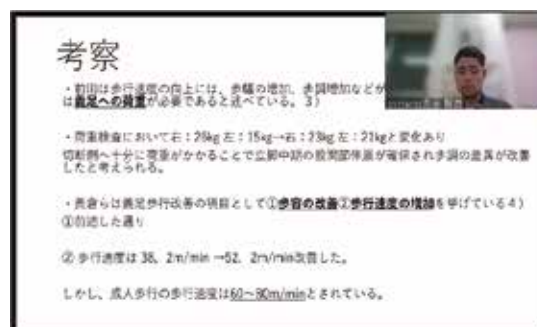
令和5年度 第5回 南薩地区研修会および症例検討会報告

北薩・南薩地区理事 山 中 純
南薩地区長 木 場 涼 介

令和5年12月19日(火) 19:00より、第5回南薩地区研修会をWeb上(Zoom)で開催させていただきました。講師はデイサービスHOMEBASEの小野恵先生により「総合事業について～通所型サービスを中心に～」というテーマで60分間にわたってお話いただきました。内容として、介護保険分野の総合事業とはどのようなものなのかということを知りやすく教えていただき、また先生のご経験をもとに、事例を挙げていただきながら、様々な角度から総合事業についてお話していただきました。今回はその中でも通所型サービスに関してのお話を中心となり、いちき串木野市での取り組みについても教えていただきました。ありがとうございました。



その後、20:10より、第5回症例検討会として、医療法人厚生会 小原病院の吉永智哉先生により「左下腿切断に対し下腿義足作成・理学療法を行い自宅退院を目指した一症例」と題して報告が行われました。なかなか義足作成から関わることが少ない先生方も多くいらっしゃり、報告後の質疑応答にて活発な質問があり、報告された先生のみならず、聴講者の先生方にも良い刺激となる症例検討会となりました。



最後に、第5回南薩地区研修会および症例検討会にご参加いただきありがとうございました。今後も引き続きご参加のほどよろしくお願いたします。また研修会の司会進行をしていただきました厚石隆一先生、および症例検討会座長を務めてくださいました、下山奈緒美先生ご協力ありがとうございました。

令和5年度 第6回 南薩地区研修会および症例検討会報告

北薩・南薩地区理事 山中 純
南薩地区長 木場 涼介

令和6年1月18日(木) 19:00より、第6回南薩地区研修会をWeb上 (Zoom) で開催させていただきました。講師は医療法人徳和会 徳久整形外科の有馬直也先生により「変形性膝関節症患者の歩行観察」というテーマで60分間にわたってお話いただきました。内容として、臨床の現場でよく経験する変形性膝関節症の患者がどのように歩行されるか、その歩行を観察し、どのような原因が考えられるか、またその際どのようにアプローチを行っているかを先生の経験をもとに、事例も踏まえてわかりやすく講義していただきました。ありがとうございました。



その後、20:10より、第6回症例検討会として、医療法人厚生会 小原病院の畠中努先生により「脳卒中片麻痺患者の感覚障害により動作不良を呈している一症例に対してのアプローチと経過報告」と題して報告が行われました。脳出血後の感覚障害に対して足底からの感覚入力へのアプローチを実施した結果、歩行能力の改善を認めた症例の報告でしたが、質疑応答も感覚障害に対してのアプローチについての質問や、苦労した点など、活発な質問があり、報告された先生はもちろん、聴講者の先生方にも良い刺激となる症例検討会となりました。

・歩行時下肢の外側接地、
踵骨へのPushing

・骨盤の前方へのシフト

・体性感覚障害による足底接地位置不良
にての足底全面での接地

	歩行	T cane	歩行 AFO	T cane+AFO
歩行歩行	48.52(55歩) 0.20m/s	42.68(49歩) 0.23m/s	55.06(49歩) 0.28m/s	21.60(33歩) 0.47m/s
快速歩行	53.05(48歩) 0.18m/s	49.42(45歩) 0.20m/s	38.63(53歩) 0.26m/s	22.92(31歩) 0.45m/s
TUG 右	48.02	45.71	36.63	26.37
TUG 左	50.09	48.52	44.49	32.06
GNWT	未測定	未測定	未測定	170m

最後に、第6回南薩地区研修会および症例検討会にご参加いただいた先生方、ありがとうございました。令和5年度の南薩地区研修会および症例検討会は終了いたしました。来年度も引き続きご参加のほどよろしくお願いたします。また研修会の司会進行をしていただきました下山奈緒美先生、および症例検討会座長を務めてくださいました、赤崎卓哉先生ご協力ありがとうございました。

役職者対象アンケート調査結果報告

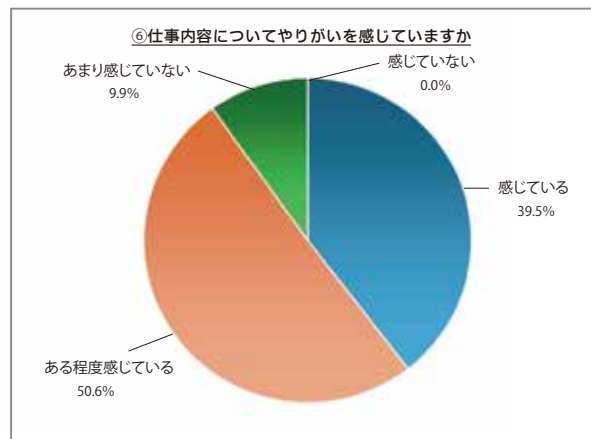
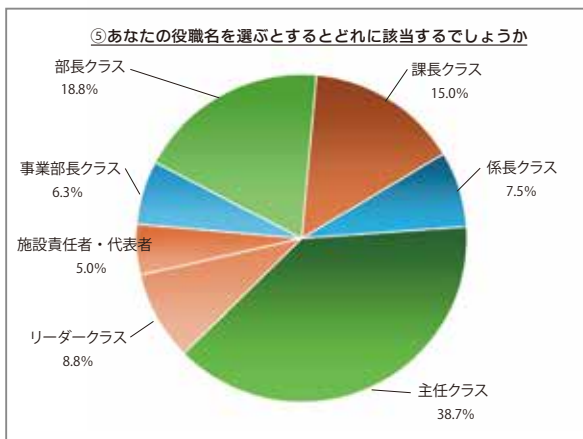
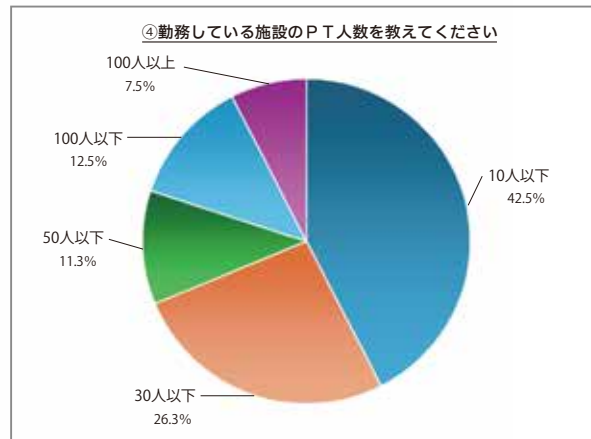
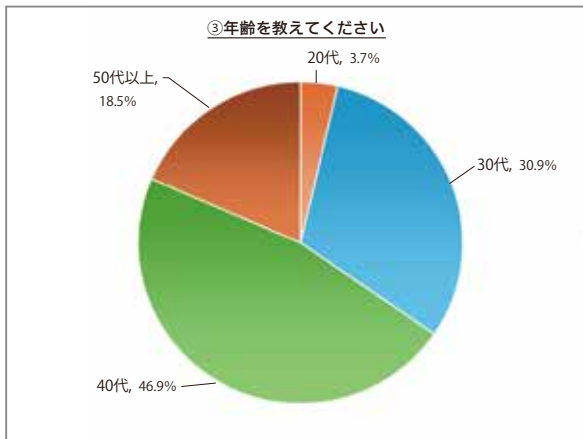
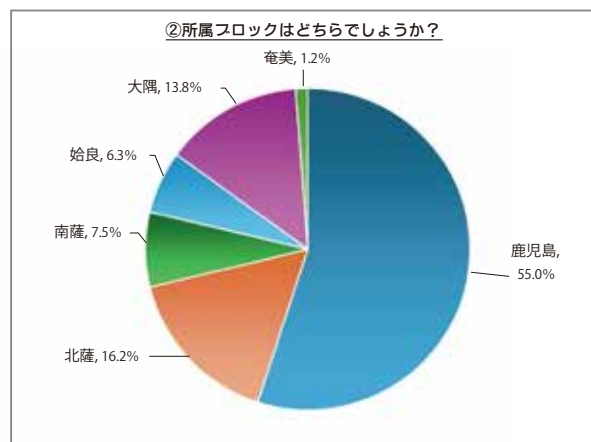
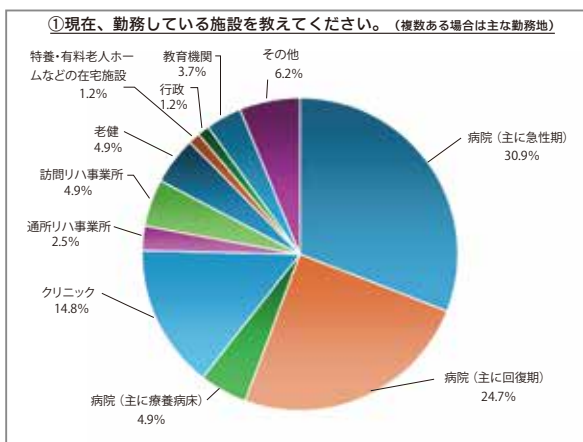
調査資料部担当理事 弓 場 裕 之

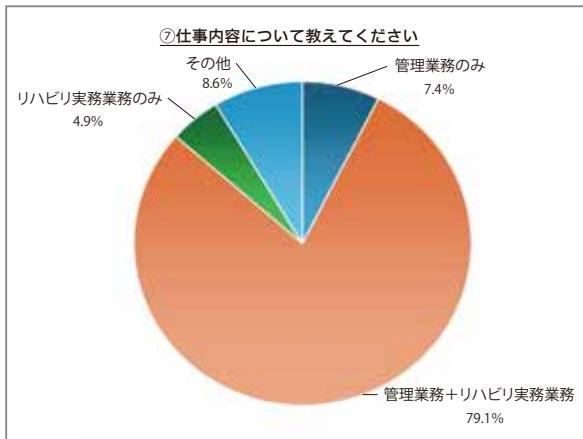
調査資料部長 福 留 史 剛

調査期間：2023/12/19～2024/1/13

回答件数：81件

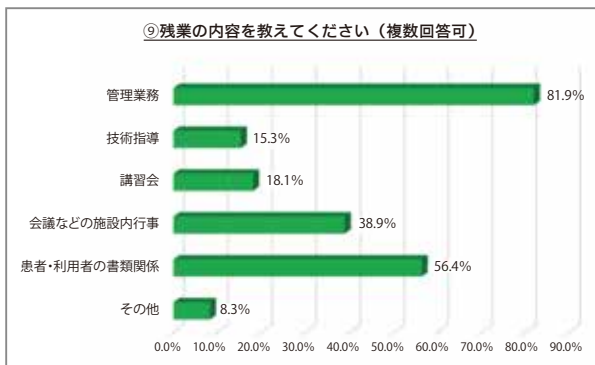
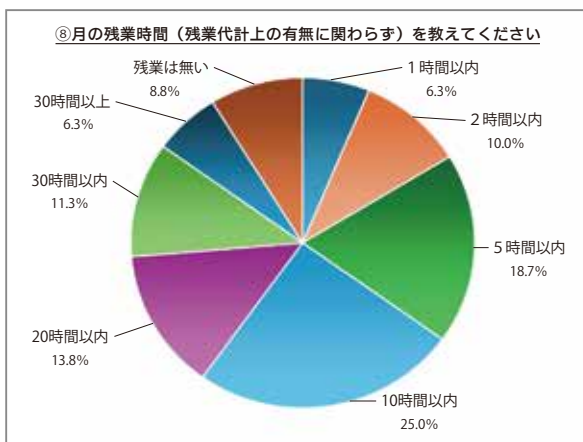
調査方法：公式LINE・協会ホームページでの広報、googleフォームでの回答





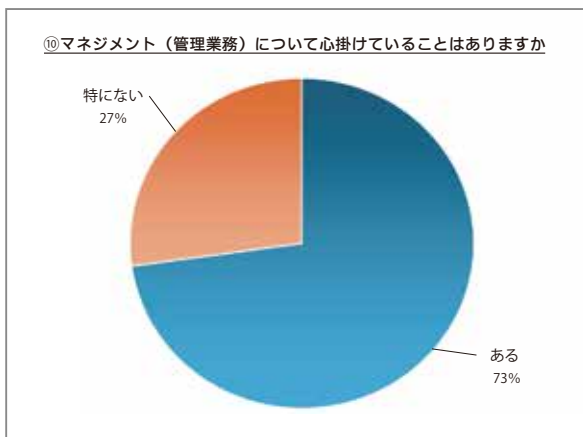
(その他内容)

管理業務と教育実務
 運営管理業務+リハビリ実務業務+介護士長業務
 管理業務と地域リハ業務グループ内職員（他職種）の育成
 病院併設施設の児童発達支援事業所勤務
 児童発達支援管理責任者業務、療育補助等の業務に従事
 補装具の支給判定



(その他内容)

スタッフからの相談
 診療時間の延長 業者と打ち合わせ
 施設整備確認など
 介護実務業務
 学会運営業務



⑩心掛けている内容（自由記載）

【スタッフへの対応に関すること】

スタッフへの言葉掛け 態度 スタッフの負担、不満の解消 各スタッフの状況 失敗をフォローできるようにチャレンジさせる
 なるべく皆が楽しく仕事出来るように、軋轢が生まれないよう調整している
 スタッフの意見を傾聴する
 各スタッフに役割を意識して頂き、目的を持って仕事に取り組んでいただけるよう心がけている
 スタッフを早く退勤できる状態にすること

職員がやりがいをもって働けるような働きかけを心がけている。
 部下の意見を聞くこと コミュニケーション スタッフの個々の能力の把握と個別性の尊重
 個々の能力の把握と個別性の尊重 チームの雰囲気作り
 ヒアリング 任せて、そのあとのフォローを怠らない 傾聴とアンガーマネジメント 精神面管理
 職員管理においては人材育成のために一人一人を分析し、強みを見つけて、できていない部分の指摘ではなくアドバイスをし、強みを褒めるように心がけている
 スタッフとのコミュニケーション (管理職側から声かけること)
 スタッフのモチベーションの維持 指導方法や説明の仕方等 その人に合った指導方法を心掛けている
 スタッフへの心的配慮 スタッフの適正評価 公平性
 パワハラ等 ハラスメントにならないように
 トップダウンではなく、部下の意見を聞きながら、管理している
 介護職員の労務管理及びメンタルケア
 噂を信じず直接本人の言葉を聞く 退職がないように配慮している
 部下の能力や希望を把握しマネジメントするよう心掛けている

【業務効率に関すること】

業務効率の改善、体制作り しっかりとした仕組み作り 業務の効率化と協調性(相互協力)のバランス
 スタッフの業務量把握 勤務時間内での業務体制 スタッフ間で仕事が偏らないようにすること
 皆が働きやすいように心掛けています 職員が働きやすい環境作り 職場環境が良くなるように
 働きやすい環境を整えるスタッフの力量に応じた業務量調整
 できるだけ全体の調和が取れるようにスタッフの業務負担バランスを見るようにしています
 現場が円滑になるように優先事項を考え、管理に徹すること

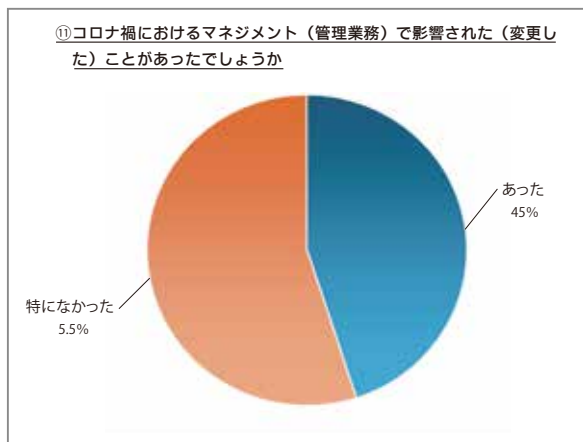
【収益関連】

病院収益 算定漏れの無いように 成果の定義と目標設定と管理 数字を把握し、スタッフ間で共有する
 売上の改善 コスバを意識した行動と意見

【その他】

多職種との関わり 科目として未修得分野であるのが前提で取り組んでいること
 長を補佐する役職なので、長の業務負担を軽減するように心がけている
 公平性にたち、物事を考える 一極では無く俯瞰的に考える
 コンプライアンス 患者さんへの転倒予防 中間管理職としての情報及び上司からの指示の管理
 患者様に対応するスタッフに還元できること 他部門との関係性
 率先垂範。報連相。職員間のコミュニケーション
 組織の方針や目標、スタッフ個人の目標設定をできるだけ明確に分かりやすく噛み砕いて伝達するようにしています

①影響された内容 (自由記載)



【リハビリ実務に関すること】

コロナ担当と担当外のスタッフで患者割り振りを変えること
 臨機応変に出勤体制の調整ができるように、外来、入院、訪問、通所のセラピスト配置の工夫をしました
 未罹患職員の業務量過多 コロナ患者対応職員の業務量過多
 これまで病棟リハはフロアを跨いで介入していたが、フロア化する事になった
 感染対策上は良かったが、リハ提供の効率は下がった

病棟応援 フロア担当制によりコミュニケーションが減少した スタッフの配置 スタッフ実働、リハビリ介入単位 勤務時間 治療介入中止となった期間のスタッフ業務 穴が空いたりリハビリのフォローのため管理業務が滞った 業務が細分化された(病棟ごとのチームになった) 病棟担当制へ変更した 役割分担(能力や家庭環境などによって振り分ける) 病棟担当制・患者担当制の感染状況に応じた変更

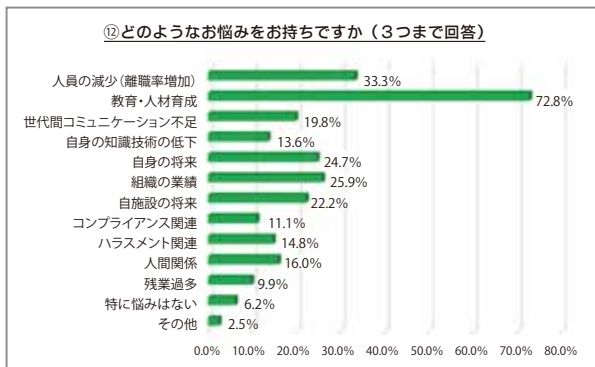
【管理的側面】

リモートの管理、準備 外部との会議等の制限など 会議の減少 勉強会の減少
部門間協働 授業内容の変更

スタッフや患者の感染対策に注力した
消毒や体温管理 職員の体調管理についてのマネジメント 体調報告を詳細に行い把握しておくようになったこと
スタッフのメンタルへの配慮 スタッフの体調管理などの管理業務が増えたことにより他業務を圧迫し時間の余裕がなくなった

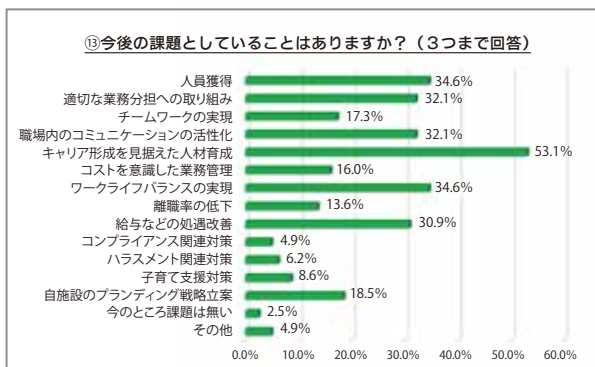
作業調整、勤務調整 部署編成

アウトブレイク時のセラピストの夜勤勤務など労務管理
感染状況に応じて、スタッフの病棟配置を変更させる
業務の効率化を図り、各人が体調管理を行いやすいよう業務負担が少なくなるよう心がけた。
他職種の業務の把握とクロスシフト
ショートステイ、面会等における感染予防対策を考慮しなければならなくなった。



(その他内容)

医療におけるリハビリテーションの将来
管理業務とリハビリ業務の際のノルマ



(その他内容)

育休職員の穴埋めができない
教育賃金の上りがないため、他産業へ人材流出
若いスタッフに対する理学療法士としてのモチベーションアップ(知識・技術の向上)

《結果を踏まえて》

役職者の方々は年代別に見ますと30代~40代が75%以上を占めておりいきいきと仕事をしているとともにやりがいを感じる一方で責任の重さや今後の動向、日々の業務に悩みつつスタッフが働きやすい環境でいられるように日々業務にあたっていることがわかりました。現在の悩みとして70%以上の回答が得られたのは『教育・人材育成』でしたが、そのまま今後課題としていることについても『キャリア形成を見据えた人材育成』に最大数の回答が得られました。施設によって様々な状況下であるため今回のアンケートでは背景を

読み解くことはできませんが教育システムの構築というのは各施設での喫緊の課題となっていることがわかりました。日本理学療法士協会より『新人理学療法士職員研修ガイドライン』が発行されており参考にしてみるのも一助となるかもしれません。

その他、多くの回答が得られた項目は『業務の効率化』『ワークライフバランスの実現や処遇の改善』『人員の獲得』『コミュニケーションの活性化』などとなっています。今回は役職者という大枠でアンケートを行いましたので役職者の中でも役割・仕事内容の違いや悩みの違いがあるかと思えます。一概には言えませんが、業務効率化に伴うワークライフバランスの実現に向けた早急な取り組みの必要性、少子化や他産業への流出に伴う学生の減少や中堅世代の離職に伴う人員確保が困難となること、また世代間のコミュニケーション不足などによる業務上の様々な弊害など問題が山積されていることが推測されます。処遇については令和6年度診療報酬改訂による改善を大いに期待したいところです。

残業時間については10時間以内/月が半数を占めており概ね一般労働者と同様（厚生労働省が2023年2月に発表した「毎月勤労統計調査 令和4年分結果確報」では、一般労働者の月平均残業時間は13.8時間）である一方で30%前後の方々は20~30時間（以上）/月の残業となっており、平均して1時間程度/日は残業している状況となっております。

最後にコロナ禍における影響された業務内容としては『スタッフ配置や業務調整に伴う労務管理』『スタッフの体調管理』など多岐にわたり非常に困難な状況・立場であったことがわかりました。

ご回答頂いた皆様、ご協力ありがとうございました。



私と私の職場

医療法人徳和会 徳久整形外科

有馬直也

暦の上では春となりました。鹿児島県理学療法士協会会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今回は私が勤務する徳久整形外科を含め、当法人である徳久整形外科デイケア向日葵の紹介をさせていただきます。

当法人は平成6年5月より南さつま市に徳久整形外科として開院しデイケア向日葵、居宅事業所をあわせ活動しています。「正しい診断・治療・患者様やご家族と話し合える医療、加えてスタッフのチームワークを大切にすること」を旨とし職員一丸となって子どもから高齢者の急性期、回復期、慢性期、在宅介護に至るまで地域医療の貢献に取り組んでいます。

私達リハビリテーションスタッフが在籍する部署は外来、入院、通所リハの3部門となりPT10名、マッサージ師1名、リハ助手3名が各業務に従事しています。

外来、入院では子どもから高齢者まで幅広い層を対象とし骨折や肩、脊柱、股関節、膝、足部の運動器疾患を幅広く深く診療させていただき生活の質の改善、スポーツ復帰ができる限り早く出来るようリハビリテーションの提供をおこなっています。また、入院では早期在宅復帰を目指し早期リハビリテーションを充実させるよう心がけています。通所リハでは短時間リハから5～6時間の枠を設け居宅事業所、地域包括支援センター等と密に連携をとり各利用者様に応じたプランの提供、生活期リハビリをおこなっています。当院は院長が各患者様や利用者様の動作を毎回確認していただきます。毎週水曜日に外来、入院患者様のリハカンファレンスを行い各部署間で連携を図り患者様、利用者様それぞれに生じる課題に対しより良いリハビリテーションの提供ができるよう心がけています。

当院に入職し5年の月日が経過しました。運動器疾患をとひとくくりと考えても幅が広く、奥が深いです。また、様々な疾患を複合している患者様、利用者様が多いです。知識を深め様々な情報、知識、技術を身につけていく必要があると感じます。今後は疾患を生じる前段階の予防(子どもから高齢者まで)の段階での介入も行えていければと考えています。

地域、社会において理学療法士の必要性を認識していただく為にも、皆さんと知識や情報の共有ができ幅広い分野で活躍できるよう日々研鑽していきたいと思っております。

向春のみぎり、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。



私のおすすめ

今村総合病院

鮫島 剣人

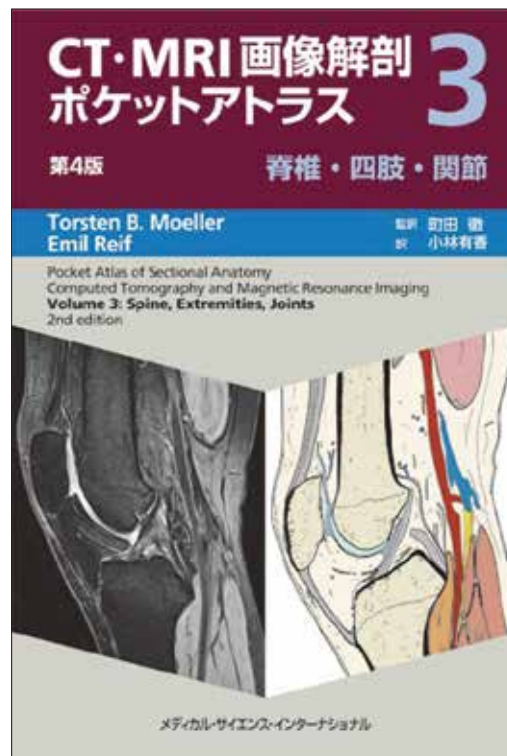
今回私が紹介する本は、株式会社メディカル・サイエンス・インターナショナル発行の『CT・MRI画像解剖ポケットアトラス』第4版 3巻の「脊椎・四肢・関節」です。

私たちの仕事において、運動機能の改善を図り、それによってADLを改善させることが目標となります。そのためには、どこで何が起きているのかを理解することは重要であると思います。

様々な評価の中でも画像の評価、読影は病態把握・解釈の大きな判断材料となり、その後の運動療法の提供方法を大きく左右するものと考えます。評価、比較するにあたり、正常を知ることが大切であり、この本はその正常をわかりやすく提示してくれます。

この本の特徴は何とんでも、断層画像とそれに対比するイラストが隣り合わせに載っており、とても見やすいところだと思います。イラストは臓器別に色分けされ、重要な構造物には引出線がついており、複雑な解剖をわかりやすく表示しています。このため読者は複雑な解剖構造を容易に、かつ正確に認識することができます。各スライスには撮像レベルを示す小さなシェーマがついており、実際の画像との対比が容易となるように工夫されています。

読影する際に、参照、比較することで正常との違いを捉える事が出来る1冊だと思います。



<https://www.medsj.co.jp/products/detail/3614>

事務手続きのご案内・連絡事項

新年度にむけて異動・休会・退会の申請は早めをお願いいたします。
年会費前納制となったことにより、異動申請により請求手続きに影響する場合がございます。
詳細は日本理学療法士協会ホームページをご確認ください。

**2024年度の年会費の納入期限は
2024年3月31日までです!!**

■年会費 **19,000円**

(日本理学療法士協会会費 10,000円 + 鹿児島県理学療法士協会会費 9,000円)
別途所属学会・研究会・サスグループの会員種別で年会費がかかる先生方は+αとなります。

■会費納入期限 **3月31日**

*日本理学療法士協会より一括請求になります。また、請求方法により締め切りが異なります。日本理学療法士協会よりお手元に届いた青い封筒内の文章をご確認いただけますようお願い申し上げます。



3月末日までに年会費の納入をされなかった場合

4月より、以下会員権利を全面停止となり、退会手続きが始まります。

(勤務先都合により事前に連絡のあった方、復会申請中の方を除く)

- ・研修会・学会等への参加申込
- ・会員としての各種演題登録
- ・会報誌・学術誌の発送
- ・理学療法士賠償責任保険の全員加入・任意加入(新規および継続)
- ・選挙権・被選挙権 他

退会後は、生涯学習履歴は全て無効となります。

再度入会を希望される際にはあらたに入会手続きが必要となり、すべて再履修いただくこととなります。

来年度新入職員が入られる施設の先生方へ

4月から新年度を迎え、新しく職員を受け入れられる施設も多いと思います。
入会申込後、入会金および年会費の納入を確認したのち、日本理学療法士協会の理事会で承認され、正会員として登録されるため、入会手続き後、正会員承認までは数か月を要します。その為、研修会参加時に登録が完了していない場合、非会員扱いとなってしまいます。入職後、直ちに手続きをされるようご指導をよろしくお願い致します。

*また、4月上旬に新卒者オリエンテーションを企画しています。
入会手続き中の有無に問わず、参加可能です。詳細は決まり次第県士会ホームページでご案内します。



事務局だより

令和5年11月1日～令和6年1月31日現在受理分

ニュース

愛知No. 211 新潟No. 205 和歌山No. 100 神奈川No. 298
兵庫No. 202 秋田No. 211

学術誌

NO Limit Vol.94
第74回北海道理学療法士学術大会プログラム集
鹿児島県医師会報 第869号
理学療法ジャーナル Vol.57 No. 12
北海道理学療法 第40巻
鹿児島県医師会報 第870号
理学療法ジャーナル 第58巻 第1号
NO Limit Vol.96
理学療法兵庫 No.29
県薬会報 No.188
鹿児島県医師会報 第871号
日越外交関係関係樹立50周年記念事業リハビリテーション
ベトナム国際セミナー

<会員動向> (11/1-1/15定期承認まで)

入会4件 県内異動30件 転入2件 転出6件
休会208件 復会0件 退会24件

会員動向に関する詳細は非公開とします。

会員数 2593名
会員所属施設数 468施設

役員行動録

11月1日 損害保険会社面談 (東條)
11月6日 3役会 (平名・生駒・白尾・東條)
11月8日 高野連打ち合わせ (平名・東條)
11月8日 理事会 (平名・生駒・白尾・東條)
11月9日 弁護士打ち合わせ (東條)
11月10日 連盟役員会 (平名)

11月11～12日 臨床実習指導者講習会 (白尾)
11月19日 専門領域研究部研修会 (白尾)
11月21日 在宅医療・介護連携推進協議会 (生駒)
11月22日 規約審議委員会 (生駒・東條)
鹿児島市転倒骨折予防支援打ち合わせ (東條)
11月24日 九州士会長会議 (平名・生駒)
11月25日 熊本県理学療法士協会50周年記念式典・
祝賀会 (生駒・東條)
11月25日 九州理学療法士学術大会 開会式 (平名)
11月25～26日 後期研修C (白尾)
11月27日 宮路拓馬政策講演会 (平名・生駒)
11月28日 POS連絡協議会理事会 (平名・生駒・東條)
11月30日 市議意見交換会 (平名) 監事監査 (東條)
12月2日 宮崎県理学療法士協会50周年祝賀会
(平名・白尾)
12月6日 おいどんカップ打ち合わせ (平名)
12月7日 リハフェスカごしま準備委員会 (平名)
12月9日 POSリーダーステップアップ研修会
(生駒・東條)
12月10日 専門領域研究部研修会 (白尾)
12月11日 3役会 (平名・生駒・白尾・東條)
12月13日 理事会 (平名・生駒・白尾・東條)
12月14日 鹿児島県医療推進協議会 (平名・白尾)
12月21日 規約審議委員会 (生駒・東條)
12月22日 地域リハ広域支援センター担当者等
意見交換会 (平名)
12月27日 十島村カンファレンス (東條)
1月6日 JPTA理事会傍聴 (平名・白尾)
1月9日 3役会 (平名・生駒・白尾・東條)
1月10日 理事会 (平名・生駒・白尾・東條)
1月11日 POS連絡協議会理事会 (平名・生駒・東條)
1月13日 規約審議委員会 (生駒・東條)
1月13～14日 スポーツ委員会研修会 (白尾)
1月24日 予算会議 (平名・生駒・白尾・東條)
1月25日 鹿児島県主催地域ケア会議助言者指導会議 (東條)
1月27日 九州ブロック管理者研修会 (平名・白尾)
1月27日 県議意見交換会 (平名・生駒・白尾)
1月28日 学術部研修会 (白尾)

編集後記

新型コロナウイルス5類移行後初の年末年始、皆様いかがお過ごしでしょうか？
本年は“甲辰（きのえたつ）”です。新たな成功を目指して、何かにチャレンジするのに
最適な年だそうです。年初めに何を始めようか計画を立てて良い年にしたいですね。
本年もよろしく願いいたします。
広報誌に関してご意見等ございましたら、編集部まで連絡をお願い致します。

rihabiri@gyokusyokai.com

編集部 岡 元 猛